

子宮移植の女性出産

スウェーデン「生体間」で世界初

【ロンドン＝佐藤昌宏】

AP通信によると、スウェーデン・イエーテボリ大学医学部の教授は3日、子宮移植手術を受けた同国の女性(36)が9月、出産したことを明らかにした。

女性は昨年、子宮移植手術を受けた。早産だったが、誕生した男児と共に健康だ

という。

出産を目的とした子宮移植は極めて異例で、倫理上の議論にもなっているが、この教授は「(子供を授かった)両親の喜びにかなうものはない」と語った。

日本子宮移植研究会代表幹事の木須伊織・慶応大助

教(産婦人科)の話「生体間の子宮移植による出産は世界初。今回の報告は子宮がない女性に大きな福音をもたらす可能性がある一方、技術的な面で未解決な部分が多く、出生した子の将来の健康を含め、倫理的な課題もさらに議論していく必要がある」

スウェーデンの36歳、世界初

子宮移植を受けたスウェーデンの女性(36)が男児を出産したと、同国のイエーテボリ大のチームが3日付の英医学誌ランセットに発表した。世界初の成功例となる。

移植を受けた女性は卵巣はあるものの、病気で生まれつき子宮がなかった。閉経した61歳の知人女性から昨年、子宮の提供を受けた。自身の卵子と夫の精子を体外受精させ、移植した子宮に受精卵を入れて妊娠した。胎児の心拍に異常が出たことから今年9月、妊娠31週で帝王切開によって1775gの男の子を出産した。母子ともに健康で、すでに退院している。

チームによると、この女性のほかに、子宮移植を受けた7人が妊娠中という。

子宮移植による妊娠は、昨年にトルコで成功したが、その後、流産した。子宮移植をめぐるのは、出産のために臓器移植をすることの妥当性や、提供者に与える身体的リスクなど倫理的な問題も指摘されている。

日本では今年3月、産婦人科医らによる「日本子宮移植研究会」が発足し、国内での実施に向けて指針づくりを進めている。

研究会代表幹事を務める慶応大の木須伊織助教(産婦人科)は「今回の出産報告の意義は大きい。ただ、この技術が日本でも容認されるかどうかは、慎重に議論していく必要がある」と話している。(岡崎明子)

子宮移植の女性出産

世界初 スウェーデンの36歳

【ロンドン共同】AP 通信は3日、スウェーデンで出産目的の子宮移植手術を受けた女性(36)が先月、世界初となる出産に成功したと報じた。出産に立ち会ったスウェーデンのイエーテボリ大の医師の話として伝えた。

やや早産だったものの母子共に健康で、既に退院。子どもは男児だというが、女性の名前など詳細は明らかにされていない。

子宮移植はこれまでサウジアラビアやトルコでも行われたが、出産例はなかった。今回の成功は生体子宮移植の可能性を大きく広げる一方で、移植が容認されるべきかどうか生命倫理上の議論を呼ぶ

【ロンドン共同】AP

可能性もある。

出産に成功した女性は卵巣を有していたが先天的に子宮がなく、60歳代前半の知人女性から昨年子宮の提供を受け、出産準備を進めてきたという。

子どもの父親はAPに対して「これまで厳しい道のりだったが、僕たちには今、素晴らしい赤ちゃんがいる。本当にかわいらしいんだ」と喜びを語った。

イエーテボリ大の研究チームは2012年以降、出産を望む女性

子への影響不明

子宮移植による出産は、女性の卵子を採取し、体外受精させて凍結保存した上で、第三

への子宮移植を順次実施。このうち2件は、世界で初めての母から娘への子宮移植として、同年9月に発表された。

ために行われるのに対し、子宮移植は女性の妊娠・出産を可能にすることが目的という点で異なる。実験段階の治療であり、生まれる子の健康への影響も明らかになっていない。

子宮のない人が子を持つには、自分の卵子を使って代理出産してもらう方法があるが、国内では日本産科婦人

科学会が指針で認めていない。

日本では慶応大などのグループが2009年から子宮移植の研究を始めており、12年、子宮を摘出したサルに再び子宮を戻し、妊娠・出産させる実験に成功した。

このグループや産婦人科医らが今年3月、「日本子宮移植研究会

を設立し、臨床研究を行う際の独自の指針を作成。提供者の安全や自発的な意思決定が確保されなくてはならないとした。また、移植を受ける人に、身体的負担などについて十分に情報提供し、移植を受ける人と提供者へのカウンセリングによる支援体制の整備が必要とした。

同研究会代表幹事の木須伊織・慶応大助教は「今回の出産は子宮のない人には福音となるが、早産をしており、生まれた子の状況を見ていく必要がある。手術技術の改善点もあり、医学的な課題や倫理的問題を含めて、日本でも議論を深めていきたい」と話す。

【下桐実雅子】

生体子宮移植から出産

スウェーデン 世界初、母子ともに健康

ＡＰ通信は３日、スウェーデンで出産目的の子宮移植手術を受けた女性（３６）が先月、世界で初めてとなる出産に成功したと報じた。出産に立ち会ったスウェーデンのイエーテボリ大の医師の話として伝えた。

子宮移植はこれまでサウジアラビアやトルコでも行われたが、出産例はなかった。今回の成功は生体子宮移植の可能性を大きく広げる一方で、移植が容認されるべきかどうか生命倫理上の議論を呼ぶ可能性もある。

出産に成功した女性は卵巣を有していたが先天的に子宮がなく、６０歳代前半の知人女性から昨年子宮の提供を受け、出産準備を進めてきたという。

子供は父親はＡＰに対し「これまで厳しい道のりだったが、僕たちには今、素晴らしい赤ちゃんがいる」と喜びを語った。

イエーテボリ大の研究チームは２０１２年以降、出産を望む女性への子宮移植を順次実施している。

（共同）